

令和3年度 自己評価書

学校名 北海道登別青嶺高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な学習姿勢を身に付け、目標を持って主体的に学力を積み上げる生徒
- (2) 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじて的確に判断し行動できる生徒
- (3) 自己理解を深め、自らの個性と適性に基づいて進路目標を確立し、自己実現を目指す生徒

2 自己評価結果及び改善方策

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
教育課程・学習指導	教育課程	生徒の実態に即した教育課程編成	B	B	単位制移行、学習指導要領の改定に伴い、教育課程委員会を中心に見直しを図る。
	学力向上	基礎・基本を大切にする指導	A	B	朝読書・朝学習の継続により、学習習慣の定着を図りながら、家庭学習の定着につなげていきたい。
		家庭学習の促進など学習習慣の定着を図る取組の促進	C	C	
		朝読書や朝学習など朝の時間の有効活用	A	B	
	授業改善	授業規律の確立	A	A	生徒自身が主体的に学ぶ意識の向上が課題であり、生徒が興味関心を持つ教材の工夫、授業改善を図る。 次年度から始まる「じもと学」において、市役所、議会等と連携を図りながら進めている。
		言語活動の充実や問題解決的な学習	C	C	
		観点別評価など評価の工夫	B	C	
		学ぶ意欲を喚起する学習指導の工夫	C	C	
		ICTの活用など学習指導の工夫	B	C	
生徒指導	規範意識	規範意識が涵養される生徒指導の推進	B	B	スマホ預かり指導は継続するが、情報モラルに関する指導を継続していく。
		スマートフォン等に頼らないコミュニケーションづくり	A	A	
	自主的主体的活動	活発な生徒会活動	B	B	生徒会行事を通し、主体的に活動できる生徒を育てる。 継続して、ボランティア活動を推進していく。 生徒の希望に添った部の精選や活動を見直す。
		地域行事への参加やボランティア活動の推進	B	B	
		部活動の充実・活性化	C	C	
	いじめ	いじめ防止に関する適切な啓発及び対策	A	C	継続して実施する。
進路指導	進路実現	上位層の学力伸長に係る取組の推進	C	C	講習・個別指導を通して、目標達成に努める。
	キャリア教育の推進と進路情報提供	保護者に対する十分な進路情報の提供	B	B	ホームページ、学校だより等のさらなる充実を図る。
		生徒との進路にかかる個別相談の充実	A	A	継続して実施する。
		系統的進路指導の推進	B	B	継続して実施する。
健康安全指導	心身の健康	生徒全員の個別面談の実施と教育相談活動の充実	A	A	個別面談の活用と「ハハ→O→U」等の検査結果を分析し、教育相談へと結びつけるとともに、引き続きスクールカウンセラーの活用を図る。
		スクールカウンセラーの活用による教育相談機能の強化・充実	A	A	
		特別支援教育への理解の促進	C	C	
	美化活動	校舎内外の清掃・環境整備	B	C	教師が模範となり、生徒への美化活動の意識付けを図る。
	防災	生徒の主体的行動を高める防災意識の涵養	B	C	総務部防災係を中心に具体的な取組について計画・実施を図る。
信頼される学校づくり	地域連携とPTA活動の活性化	PTA便り・学校通信・HP・ライン`スクールなど発信の強化	B	B	学校情報はPTAだより、HP、一斉メール配信等様々なツールで発信していることを周知する。中学校との連携は部活動も含めて積極的に図る。
		地元中学校との情報交換、部活動などの交流	D	C	
		学校行事への参画の推進などPTA活動の活性化	D	C	
組織運営	教職員の連携強化	教職員の学校経営参画意識を持った主体的取組の前進	D	D	報・連・相の意識を高め、日常の会話も含め情報共有に努める。
		教職員同士の意思の疎通と組織的運営	D	D	
		的確な反省引き継ぎなど事業・行事実施後の成果と課題の把握	D	D	
	働き方改革	教育課題や教育情報の共有化と共通認識の促進	D	D	職員会議、朝の打合せ等を活用し教育情報の共有化を図る。 業務の精選を図り、研修を実施し、具体的な取組について計画・実施を図る。
		教職員の意識改革や学校運営の工夫改善が進んでいる	D	D	
資質向上	研修等の充実	校外での研修への参加と積極的な教科内研修の実施	D	D	研修者のみの研修で終わることなく、研修で得た情報を職員全員が共有し、研修の効果を図る。
		教職員と保護者との連携	C	C	
		授業観察や助言による教職員の資質向上	D	D	
新型コロナウイルス感染症対策		生徒に対し適切な指導	A	A	新型コロナウイルス感染症対策は引き続き次年度も継続していく。
		消毒・換気作業などの対策	A	A	
		職員間での情報共有	A	A	

3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・次年度入学生の実態について教育課程委員会を中心に進めてきた。今後は次年度の生徒の様子を踏まえ、今後入学してくる生徒の状況を把握しながら、見直しを進める。
- ・スマートフォンの預かり指導については一定の成果を上げていると評価を頂いている所なので、今後も継続していく。しかし、ICT活用やBYODとの関係で取り扱いについて今後教職員で方向性を検討する必要がある。
- ・進路指導については国立大学への進学を含め成果を上げているが、今後しっかりとキャリア教育を進めていく上で、地域との連携が不可欠となるため、学校運営協議会と連携して地域の教育力の活用を検討する。